

—— 友の会 35 周年台湾交流の旅特集 ——



奇美博物館前



奇美特別展前



忠烈祠

心温まる台湾の旅。移情閣友の会結成 35 周年・国際音楽協会結成 20 周年を記念して、4 月 12 日から 15 日まで訪華音楽交流の旅に 34 名が出かけました。1 日目の演奏会場が台南市立文化センター原生劇場。本番では、アンコールの嵐に台湾民謡「阿里山の歌」で応え、温かい拍手に包まれました。2 日目は奇美博物館。宮殿のような優雅な建物で、フルート、歌、トロンボーン、笛、合唱で、日本の童謡唱歌などを演奏しました。特に博物館の創始者許文龍

先生 (91 才) ご夫妻のご臨席を賜りました。日本留学の経験もある許先生は、懐かしさについて指揮をされたり、一緒に歌われたりと感極まるシーンも多々あり、アンコールがいつまでも続く、貴重な経験でした。3 日目は国父記念館で公演。厳粛な雰囲気の中にも台湾の方たちの温かさを感じる演奏会でした。次回は合唱交流をと素敵な約束を交わしました。今回も皆様のお蔭で素晴らしい記念の旅になりました。心より感謝申し上げます。(張 文乃)

予てより希望していた念願の台湾旅行でしたが、このたび、後藤みなみ様よりご案内いただき、訪れることができました。私は以前より故宮博物館の展示品の見学をしたいと思っておりまして、その念願を叶えることができたことは何より嬉しかったです。

台湾は 1945 年 8 月 15 日まで日本国でありました。街の看板文字は漢字で何の違和感もなく、各地を観光することができました。但し中国語のため不自由であり、語学勉強不足を強く感じました。特に日本の寺院風の立派な建築物を、大変多く見ることができました。そして銀行や証券会社が各所で営業され経済の豊さを肌で感じるすることができました。又、八田興一様のダム建設状況を記念館においてうかがうことができ、ことのほか感動いたしました。それ

から台湾の記念館や博物館・特に国父記念館においては衛兵の交代式が、規律正しくきびきびとして行われ、印象的でした。今なお、目前に浮かんできます。私は先の大戦により、父が戦死しましたので忠烈祠へ行って、本殿一番奥の拝殿において詩吟「九段の桜」を吟じ、戦没者に対して哀悼の誠を捧げることができ、戦争の悲惨さや命の大切さをより強く感じることができました。故宮博物館は見学時間が短く残念でしたが、次回改めて 1-2 日の予定を組んで、訪問したいと思っております。総統府の 1 階見学も大変良かったです。今回の参加者の中で私は 2 番めに高齢であったので、皆様方にご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。お陰さまで無事旅を過ごすことができ、心より深く感謝申し上げます。(谷 忠義)

今回の台湾旅行、私自身スッキリしないまま関空に到着した。理由は三つあった。

一つ目は台南の LADY MAMA、二つ目は忠烈祠に入る前の異常なほどに感じた寒気、三つ目が「走味咖啡」。それ以外は大満足。特に真新しい奇美博物館では、会場といい、出演者のパフォーマンスといい、その感動的な結末といい最高のライブだった。一つ目と三つ目は補足しないと何のことやわからない。LADY MAMA、以前友人からお土産に頂いた「楓糖夏威夷豆塔」がいたく気に入って今回買い求めたいと思っていた。台南では店がホテルから離れていたため諦め、三日目の免税店では「扱っていない」と袖にされ、空港では探す時間が

なかった。三つ目の「走味咖啡」は平溪で見かけた看板。後藤さんに聞いてもらったら、店員さんが持ってきた携帯の歌がどこかで聞いたことがあるような演歌っぽい歌。どんなコーヒーかわからぬまま。帰国後二週間いろいろ調べた結果、二つ目以外はハッキリした。LADY MAMA とは Facebook で連絡が取れた。三つ目のあの時、聞いた歌を見つけた！失恋の歌で「走味」には「気の抜けた」という意味があるようだ。失恋した人が飲みに行く？このユーモア感覚は日本にはないなあ、と感じた。三つ目はどうやら心の問題（曰く、言い難し）で、例えば、音楽で癒すしかないのかもしれない。(加茂 建二)